

んは、広島カープや」。その次は、名前を覚えてもらうこと。「広島宮本」。「そのためにはどうしたらいいか。ずーっと通うこと。もう一個大事なことは、練習の最初から最後までおること。これが僕は一番の誠意やと思う」

「宮本さんが毎日来てるから、他球団が退いたって話は本当ですか？」

「僕なりに考えてるのは、僕が結構いい年齢やったからね。他のスカウトよりも僕が先に行ってる。他のスカウトが来て途中で帰りはるけど、僕は最後までおる。こんど来たなら、また僕がおる。このくそ暑いのに、いっつもネクタイして、毎日来てる。もうこれは宮本さんとここに譲らなあかんっていうのがあったんじゃないかな」

「そういうスカウト世界の仁義のようなものって、やっぱりあるんですか？」

「ある、僕らはある。僕らも昔、経験したことがある。言葉じゃなくて、なんかあるんだよ。ここはもうどうぞ、しゃあないなあいうのがあります。もちろん通ったこともそうやけど、ある程度の僕の年齢がめっちゃ武器になった。ただ単に年を取ったんじゃないって、うん十年やってるから年を取っていくんであって、これは絶対ね、貴重やと思うよ。こんな長い間やらせてもらってカープにはめっちゃ

て、次の試合を見たら、大きなカープを投げた。ああ、すごいなあ、こんないいカープもあるんやなあ」と

「コントロールもいい。」
「フォームが安定してる。変化球でも真つすぐでも、リリースポイントが一緒。だからコントロールがいい」
「力投派ですね。」

「どっちかっていったら手先で器用にやるタイプの子じゃない。全身で力いっぱい投げるタイプ。体を使いますよ。でも、200何球投げて、そのあとの試合もずっと投げとったでしょ。それだけのスタミナがあるということ」

「連投問題が取りざたされました。」

「投げるのは」当然でしょ。僕らっていったらおかしいけど、昔は、中継ぎ、抑えっていうのがなかったんで、高校生なんか特に一人で投げて終わるんで、次の試合もまた投げるし。それで肩が痛いとかなったこともない」

「乾投手で一番いいなあと思うところは。」
「ボールを長く持てる。左足をステップしてから、投げるということは、球持ちがいい証拠です。スピードガンの数字より、ホームベース上が速いので、打者は打ちづらい」
「ポップフライが多いのもそのせい？」
「バッターはタイミングがね、長く持つてる

宮本さんの高校時代

宮本さんは、米子東高3年時、エースとして春夏甲子園に出場。春は準優勝している。「スター選手もいなかったし、僕ら田舎チームが勝てると思わなかった。ただ、3本の矢の例えじゃないけど、どんぐりが集まったら強いなと思った。僕らどんぐりばかりやったけど、まとまりがものすごくあったんで」

身長は170センチちょっと。「大きいやつには負けたくないと思って」人の3倍は練習した。「努力はしました、間違いなく」。

冬場は毎朝、授業が始まる前の1時間、中海の無人島までポートを漕いだ。オールを握って漕ぐ行為で、体幹も握力も鍛えられた。

1日400球投げることもあった。グラフ用紙に250、300、400…と毎日書き込んだ。「だからコントロールがよかった。体が硬かったんで、どうしたらそこへボールがいかなくて自分で考えたら、投げるしかないなと思って。投げるということは、めっちゃ体を使うじゃないですか。体で覚えてしまえば、目をつぶってても、このへんで離れたらそこへいくようになる」

正直、長距離を走るの苦手でしんどかったが、必要なことだった。「土の上を走ることが一番大事ですよ。特にピッチャーなんか、走るが勝ち。走る事によって強くなるのは下半身だけじゃない。肩もヒジも全部強くなる。今筋力トレーニングとか流行ってるけど、やっぱりね、走った方がいいです、土の上をどんどん走る」

今春のセンバツを見て

感謝してるけど、本音はまだやりたい。たぶんこういう仕事は死ぬまでできると思う」

「センバツをご覧になって、ズバリ、宮本さんの好みのタイプは。」
「やっぱり済美の安樂(智大)かな。あと、報徳学園の乾(陽平)ですね。安樂はおもしろいなあ。ええピッチャーよ。初戦を見て、速い真つすぐと速い変化球やったから、緩い球を覚えたらピッチングの幅がすごく広がるの」と思っ

から、打ちにいったけど、まだボールがこない。ホームベースの上で、いかにピュッとさせるかということ。ということは、終速ですよ。初速と終速の差のないピッチャーがいい。145キロ出るからいいんじゃないかって、球持ちの長い子は、ベース上が速いんです」
「優勝したのは、2年生左腕・小島和哉投手擁する浦和学院でした。結果的に小島投手は5試合で3失点のみ。優勝に導いた要因はなんだと思われませんか。」
「やっぱりコントロールじゃないかな。それと投球術。たとえばバッターが真つすぐを狙ってくる時に、ポツと変化球でストライクをとる、変化球やなと思うときにピュッと真つすぐで抑える、という術。相手の心理を読みながら、インニングや得点差を考えて投げられるピッチャーです」

「バッと見には、そう大きな特徴のあるピッチャーではありませんね。」

「逆にバッターとしたら、こわさがないんで、ああ打てるなあと思つていくんやけど、いつのまにか抑えられたという。驚くような速さもないし、何がええねんいうた



宮本さんが好みのタイプの投手に挙げる乾陽平投手 (報徳学園)



宮本さんが新聞社に依頼された記事でも取り上げた園部聡選手 (聖光学院)

ら、やっぱり押し引いたりできることですよ」
「そういうのも天性の部類に入りますか。」
「もちろん場数を踏まないといけないし、ある程度頭の勉強もいるけど、相手が考える以上に自分も考えられる能力を持っているということ」
「バッターはいかがでしょう。聖光学院の園部聡選手について新聞のコラムで書かれていますね。」